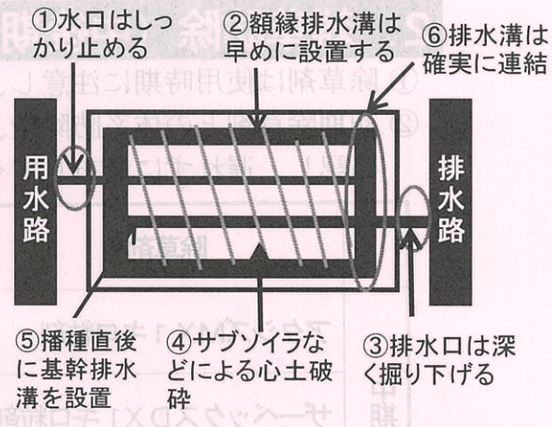
大豆情報　第1号

大豆は、初期生育をしっかり確保することがポイントです。
基本技術を徹底し、高単収、高品質な大豆を生産しましょう！

1. 土づくり　（営農日誌 P89 参照）

① 有機物を施用し、地力を高めましょう。堆肥の施用は、収量向上・しわ粒軽減効果があります。
② **大豆に適する土壌ｐＨ６～６．５に矯正するため、苦土石灰を確実に施用**してください。

資材名			１０ａ当たり施用量
有機物	牛ふん堆肥	または	１～２ｔ
	発酵鶏ふん		１００～２００kg
石灰質資材	苦土石灰		単作：２００kg、麦跡：１００kg



2. 排水対策　（営農日誌 P83～84，89 参照）

① 耕起前に必ず心土破砕や額縁排水溝等、排水対策を行ってください。
② 額縁排水溝と基幹排水溝は確実に排水口に連結してください。
※排水不良は、酸素不足になり発芽不良となります。

3. 種子消毒　（営農日誌 P89 参照）

① 種子は全量更新し、種子消毒を徹底してください。

薬剤名	使用時期	処理方法	対象病害虫
クルーザーMAXX	播種前	種子5kg あたり原液 40mℓを塗沫する ※クルーザーMAXX には、播種機の目詰まり防止対策資材として「タルク」が付いています。 クルーザーMAXX を投入し、１０～１５秒以内に種子5kg に対しタルク４０ｇを投入し、３０～４０秒ほど乾燥してください。	紫斑病 、茎疫病、 リゾクトニア根腐病、 タネバエ、フタスジヒメハムシ、 ネキリムシ類、アブラムシ類

4. 播種作業　（営農日誌 P89～90 参照）

① 耕起・播種～除草剤散布作業までは、天気の良い日に１日で行い、土壌の砕土率を高めて播種してください。
② 必ず試し播きを行い、**播種深度が３ｃｍ程度**になるよう調整してください。
③ 目標本数を確保するため、播種量の調整を行うとともに、欠株を出さないため**適正な作業速度（０．５m／秒程度）**で播種作業を行ってください。

◆播種の目安（大粒の場合）

品種	播種時期	10a あたり播種量（kg）	目標本数（本/10a）
エンレイ	５月下旬～６月上旬	4.9～5.6	14,000～16,000
	６月中旬（麦跡）	5.6～6.3	16,000～18,000
シュウレイ	６月上旬	※6.3～7.2	14,000～16,000

※本年のシュウレイ種子は、やや粒が大きいため、例年より１～２割程度多めに準備してください。

◆施肥量

基肥（分施）の場合

項目	資材名	10a あたり施用量
単作大豆	となみ野基肥４０３（N-P-K 14-10-13）	１７kg
〃（３回以上）		２６kg
麦跡大豆		３４kg

基肥一発（肥効調節型）の場合

項目	資材名	10a あたり施用量
単作大豆	ＬＰｓ大豆専用５２２（N-P-K 25-12-12）	３０kg
麦跡大豆		４０kg

5. 除草剤散布　（営農日誌 P90 参照）

① 除草剤は濃度や散布量を遵守し、播種後すぐに散布してください。

薬剤名	10ａあたり散布量	注意事項
トレファノサイド粒剤２．５	４～６ｋｇ	播種後の土壌が湿っている状態で速やかに散布する。
プロールプラス乳剤	薬剤500mℓ＋水100ℓ	散布直後の多量の降雨は薬害の恐れがあるため天候を見極めて散布する。